世界のワイン消費量、1957年以来の最低水準に

スイスの2025年のワイン消費量は2億1,100万リットルに減少。生産者は政府支援と輸入規制の強化に身構える

2026年11月23日（月）



WRSは11月23日月曜日、世界のワイン消費量が1957年以来の最低水準に落ち込んだと報じた。国内需要も弱まるなか、スイスでは懸念が深まり、当局は業界への支援策を検討している。

報道によると、2025年のスイスのワイン消費量は2億1,100万リットルで、2024年を約3%下回った。赤ワインの落ち込みが最も大きく、消費量は約6%減少した。この数字は、国内需要の軟化と世界市場全体の勢いの衰えに直面するスイスのワイン生産者に、さらなる圧力をもたらしている。

WRSによると、減少の主な要因は若年層の消費者だ。健康への懸念や価格上昇、ライフスタイルの変化がワイン離れにつながっており、若い年齢層では日常的に飲む人が減っているという。この変

化は、一時的な落ち込みではなく需要の構造的な変化を示唆するため、生産者にとって特に重要だ。

懸念は政府の最高レベルにまで及んでいる。スイス連邦大統領であり、ヴォー州のワイン生産者でもあるGuy Parmelin氏は、WRSが「危機対応の円卓会議」と表現した業界関係者との会合を10月に開いた。この会合は、ブドウ畑の経営を圧迫する財務上の負担や、消費の低迷が何年も続くリスクへの不安が高まっていることを反映している。

スイス連邦参事会は、支援策の可能性について2027年1月に意見募集を開始する見通しだ。WRSが挙げた選択肢には、ブドウ畑の面積縮小や輸入規則の厳格化が含まれる。決定はまだ発表されておらず、いずれの措置も意見募集の手続きを経る必要がある。

輸入規則が厳格化される可能性は、国内生産者以外にも影響を及ぼしかねないため、飲料業界全体が注視している。スイスが輸入制限に踏み切れば、海外のワイナリーは市場へのアクセスが縮小するおそれがあり、スイスの需要に依存する輸出業者や流通業者にとって、販売計画や事業予測が難しくなる可能性がある。

スイスでの議論は、ワイン取引が消費者行動のより広範な変化に直面するなかで起きている。世界の消費量が1957年以来の水準にまで落ち込んだことは、圧力が一国や一度の収穫サイクルに限られないことを示している。スイスの生産者にとって目下の課題は、国内販売の低迷だ。飲料業界全体にとっては、欧州の確立されたワイン市場の一つが、国産品と輸入品の競争構図を変える政策に動くかどうかが焦点となる。

2027年1月に意見募集が予定されるなか、生産者や輸入業者、取引業者は、スイス政府がどこまで踏み込むのかを示す兆候に注目することになる。議論の中心となりそうなのは、国内のブドウ畑への支援だけで景気後退に対処できるのか、それとも国内産業の保護には外国産ワインの市場流入を新たに制限する必要があるのかという点だ。